

「実務経験のある教員等による授業科目」  
のシラバス〔2023年度〕

I G L 医療福祉専門学校

学科名 介護福祉学科	科目名 介護の基本B	担当者 吉村 裕子
種類 (講義・演習・実習)	回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)
		配当学年・時期 1学年 前期 後期
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目である。特別養護老人ホームでの勤務経験をもち、介護現場での実践をもとに、根拠に基づいた客観的で科学的な介護技術を、わかりやすく指導する。</p> <p>[目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。</li> <li>「介護とは何か」「介護の歴史」を知ることによって、介護福祉士としての基礎的な知識を習得する。</li> </ul> <p>[内容の概要]</p> <p>複雑化・多様化・高度化する介護ニーズおよび、介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題としてとらえ、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解する。</p> <p>[修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活支援を行う介護福祉士の役割や専門性について説明することが出来る。</li> <li>介護福祉士が行う支援の意義や目的を説明することが出来る。</li> </ul>		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション・介護福祉士とは</li> <li>介護福祉を取り巻く状況①</li> <li>介護福祉を取り巻く状況②</li> <li>介護福祉を取り巻く状況③</li> <li>介護福祉の歴史①</li> <li>介護福祉の歴史②</li> <li>介護福祉の歴史③</li> <li>介護福祉の歴史④</li> <li>介護福祉の歴史⑤</li> <li>介護福祉の歴史⑥</li> <li>介護福祉の歴史⑦</li> <li>介護福祉の基本理念</li> <li>尊厳を支える介護</li> <li>自立を支える介護</li> <li>まとめ・前期末試験について</li> </ol>		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>○最新介護福祉士養成講座3「介護の基本I」第2版</p> <p>○介護福祉用語辞典</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>前期末試験と授業点(授業態度、小テスト、提出物等)及び出欠席における総合評価</p>

2 0 2 3 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 介護福祉学科	科目名 介護の基本A		担当者 吉村 裕子
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	回数 1 5 回	時間数(単位数) 3 0 時間 ( 2 単位 )	配当学年・時期 1 学年 前期 後期
<p>[目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。</li> <li>「介護とは何か」「介護の歴史」を知ることで、介護福祉士としての基礎的な知識を習得する。</li> </ul> <p>[内容の概要]</p> <p>複雑化・多様化・高度化する介護ニーズおよび、介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題としてとらえ、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解する。</p> <p>[修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活支援を行う介護福祉士の役割や専門性について説明することが出来る。</li> <li>介護福祉士が行う支援の意義や目的を説明することが出来る。</li> </ul>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・介護福祉士とは</li> <li>2. 介護福祉を取り巻く状況①</li> <li>3. 介護福祉を取り巻く状況②</li> <li>4. 介護福祉を取り巻く状況③</li> <li>5. 介護福祉の歴史①</li> <li>6. 介護福祉の歴史②</li> <li>7. 介護福祉の歴史③</li> <li>8. 介護福祉の歴史④</li> <li>9. 介護福祉の歴史⑤</li> <li>10. 介護福祉の歴史⑥</li> <li>11. 介護福祉の歴史⑦</li> <li>12. 介護福祉の基本理念</li> <li>13. 尊厳を支える介護</li> <li>14. 自立を支える介護</li> <li>15. まとめ・前期末試験について</li> </ol>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○最新介護福祉士養成講座3「介護の基本I」第2版</li> <li>○介護福祉用語辞典</li> </ul>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>前期末試験と授業点(授業態度、小テスト、提出物等)及び出欠席における総合評価</p>	

学科名 介護福祉学科	科目名 介護過程 I	担当者 廣田 敦子	
種類 (講義・演習・実習)	回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1学年 前期 後期
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目である。介護老人福祉施設、障害者施設、福祉用具貸与事業所などでの勤務経験をもち、介護現場での実践をもとに根拠に基づいた、介護過程の展開を指導する。介護福祉士の資格を持つ教員が、実務経験の知識と技術を生かした教育を行う。</p> <p>[授業の目的・ねらい] 「介護過程」の意義と展開方法について理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 本人の望む生活を実現するために、求められる支援を導くためには介護過程という思考の展開が必要である。ワークを中心に「物事を進める際の考え方」を見につける。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護過程の一連の流れについて説明できる。</li> <li>・介護過程の前提としての「ニーズを見る視点」を理解する。</li> <li>・情報収集の大切さを理解する。</li> </ul>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「介護過程」の展開を学ぶ前に</li> <li>2 「介護過程」の意義・目的</li> <li>3 「介護過程」の全体像</li> <li>4 「介護過程」とICF</li> <li>5 「介護過程」の展開の理解①</li> <li>6 「介護過程」の展開の理解②</li> <li>7 生活支援の考え方と介護過程の必要性の理解①</li> <li>8 生活支援の考え方と介護過程の必要性の理解②</li> <li>9 「介護過程の理解」アセスメントとは</li> <li>10 「介護過程の理解」情報収集を収集する際の留意点</li> <li>11 「介護過程の理解」アセスメントの視点</li> <li>12 意図的な情報収集とは</li> <li>13 事例による情報収集①</li> <li>14 事例による情報収集②</li> <li>15 まとめ 試験について</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座9 介護過程 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 期末試験と授業点(授業態度、提出物)の総合評価	

学科名 介護福祉学科	科目名 社会の理解A	担当者 田中 加奈子	
種類 (講義・演習・実習)	回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1学年 前期 後期
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目である。介護老人保健施設、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所などで主に相談業務の実務経験をもち、社会のしくみや制度についてわかりやすく解説を行う。</p> <p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える。対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する。日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>生活の基本機能とライフサイクルの変化及び家族、社会、組織、地域社会の概念を理解する。地域共生社会の実現に向けた制度や施策、社会保障制度などについて学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>生活と社会のかかわりについて理解できる。地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方が理解できる。社会保障制度の基本的な考え方としくみ、社会保障の現状と課題を理解できる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 生活を幅広くとらえる、生活の基本機能</li> <li>3 ライフスタイルの変化、家族の機能と役割</li> <li>4 社会・組織の機能と役割、地域・地域社会、地域社会における生活支援</li> <li>5 地域福祉の発展</li> <li>6 地域共生社会、地域包括ケア</li> <li>7 社会保障の基本的な考え方</li> <li>8 日本の社会保障制度の発達</li> <li>9 日本の社会保障制度のしくみ①</li> <li>10 日本の社会保障制度のしくみ②</li> <li>11 日本の社会保障制度のしくみ③</li> <li>12 日本の社会保障制度のしくみ④</li> <li>13 現代社会と社会保障制度</li> <li>14 高齢者保健福祉の動向</li> <li>15 高齢者保健福祉に関連する法体系・まとめ</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座 2 社会の理解 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] ・期末試験と授業点(授業態度、提出物)の総合評価	

学科名 介護福祉学科	科目名 医療的ケア I	担当者 小川輝子
種類 (講義・演習・実習)	回数 17回	時間数(単位数) I 34時間(2単位)
配当学年・時期 2学年 前期 後期		
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目である。看護師資格を有し、病院勤務の経験を持つ教員が、臨床経験の知識と技術を生かした教育に取り組んでいる。</p> <p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>個人の尊厳・保健医療等の制度・喀痰吸引の清潔・感染予防について学ぶ。 安全に医療的ケアを行うための、知識、技術を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療的ケアが必要な利用者・家族が気持ちを理解できる。</li> <li>2. 医療的ケアにおける他職種との連携の理解ができる</li> <li>3. 医療的ケアにおける身体の解剖・生理・感染予防を理解できる。</li> <li>4. 「たん吸引」に関する呼吸器の構造・働きや感染予防・呼吸管理方法を理解できる。</li> <li>5. 「たん吸引」の基本的な留意点と技術が理解できる。</li> </ol> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p>		
回	内 容	キーワード
1回	医療的ケア実施の基礎①	1) 医療的ケアとは 2) 医行為について
2回	医療的ケア実施の基礎②	GW 医療倫理
3回	医療的ケア実施の基礎③	1) 喀痰吸引等制度 2) 医療的ケアと喀痰吸引の背景 3) その他の制度
4回	医療的ケア実施の基礎④ 安全な療養生活	1) 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施、 申し送りについて
5回	医療的ケア実施の基礎⑤ 清潔保持と感染予防①	1) 感染予防 2) 介護職の感染予防
6回	医療的ケア実施の基礎⑥ 清潔保持と感染予防②	1) 療養環境の清潔、消毒法 2) 消毒と滅菌 3) 喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、 清潔保持
7回	医療的ケア実施の基礎⑦ 健康状態の把握①	1) 身体の種類 2) 健康状態を知るバイタルサイン
8回	医療的ケア実施の基礎⑧ 健康状態の把握②	1) 急変状態について
9回	喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)①	1) 呼吸のしくみと働き
10回	喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)②	1) いつもと違う呼吸状態
11回	喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)③	1) 喀痰吸引とは (痰の正常・異常)
12回	喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)④	1) 喀痰吸引により生じる危険・事後の安全確認 2) 急変・事故発生時の対応と事前対策 3) 呼吸器系の感染と予防
13回	喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)⑤	1) 人工呼吸器と吸引

14回	喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）⑥	1) 子どもの吸引 2) 吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意
15回	喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）⑦	1) 喀痰吸引とは 必要物品・清潔保持法（消毒剤・消毒方法）
16回	喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）⑧	1) 吸引の技術と留意点 （口腔・鼻腔・気管カニューレ）
17回	高齢者及び障がい児・者の「たんの吸引」 まとめ	1) 小テスト（主に喀痰吸引）
[使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉全書 15 医療的ケア 第2版 中央法規 MINER VA 福祉資格テキスト 医療的ケア ミネルヴァ書 房 2013 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト 中 央法規 2012		[単位認定の方法及び基準] 試験・授業態度・課題・出席状況の総合評価とする  <u>*小テストにおいては、9割以上の者を合格とし、合格しなければ演習の授業に進めない（介護福祉法施行規則）</u>

学科名 鍼灸学科	科目名 東洋医学臨床論 I		担当者 尾野 佳代
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	回数 60回	時間数(単位数) 120時間(4単位)	配当学年・時期 2学年 前期 後期
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目である。鍼灸院での勤務経験をもち、現在も附属鍼灸院で鍼灸の臨床を行なっている教員が、臨床経験をもとに各疾患についてわかりやすく解説を行う。</p> <p>[目的・ねらい]</p> <p>診察の結果をもとに鍼灸治療の適・不適を判断し、適切かつ安全な治療方針および治療計画を立てるための能力を養う。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>臨床上遭遇しやすい症候・疾病に対する現代医学的な考え方と東洋医学的な考え方を、教科書をベースに配布資料を交えて学習する。</p> <p>[修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>現代医学的な考え方と東洋医学的な考え方を総合的に理解し、鍼灸治療の適・不適を判断した上で、適切かつ安全な治療方針および治療計画を立てることができる。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容]			
1・2 治療総論／肩こり		31・32 頸肩腕痛／痺証	
3・4 肩こり／眼精疲労		33・34 痺証／上肢痛	
5・6 眼精疲労／頭痛		35・36 上肢痛／絞扼神経障害	
7・8 頭痛／めまい		37・38 絞扼神経障害／肩関節痛	
9・10 めまい／耳鳴りと難聴		39・40 肩関節痛／腰下肢痛	
11・12 耳鳴りと難聴／鼻閉, 鼻汁		41・42 腰下肢痛／膝痛	
13・14 鼻閉, 鼻汁／咳嗽		43・44 膝痛／運動麻痺	
15・16 咳嗽／喘息		45・46 運動麻痺／顔面麻痺	
17 中間試験		47・48 顔面麻痺／顔面痛	
18・19 喘息／胸痛		49 中間試験	
20・21 胸痛／腹痛		50・51 顔面痛／歯痛	
22・23 腹痛／悪心と嘔吐		52・53 歯痛／排尿障害	
24・25 悪心と嘔吐／便秘と下痢		54・55 排尿障害／月経異常	
26・27 便秘と下痢／高血圧症		56・57 月経異常／食欲不振	
28・29 高血圧症／低血圧症		58・59 食欲不振／肥満	
まとめ・前期末試験		まとめ・後期末試験	
30 試験解説		60 試験解説	
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
「新版 東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉」南江堂 「新版 東洋医学概論」医道の日本社 「臨床医学総論第2版」医歯薬出版株式会社		年4回の定期試験の平均点が60点以上で単位取得を認定する。(学生便覧参照)	



学科名 鍼灸学科	科目名 臨床医学各論 I	担当者 上垣内 敬司																																
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	回数 60回	時間数(単位数) 120時間 (4単位)																																
配当学年・時期 2学年 前期 後期																																		
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目である。鍼灸院を開業しており、臨床経験が豊富な教員が、東洋的な考え方を紹介しながら、各疾患についての説明を行う。</p> <p>[目的・ねらい]</p> <p>疾病に関する医学的知識についてその概念を把握し、その原因、性状、検査、治療及びその予後について基礎的な知識を習得し、また、主要疾患に関してはその病態生理と症状の発現に関して理解しながら、各疾患の病態メカニズムについてその知識を深める。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>一般医学における各系統の疾患についての基本的な知識を習得する。</p> <p>[修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>臨床家として必要最低限の知識の習得と病態の把握ができるようになる。</p>																																		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0"> <tr> <td>1 ガイダンス、消化器疾患 (口腔)</td> <td>31 糖尿病</td> </tr> <tr> <td>2～4 消化器疾患 (食道・胃)</td> <td>32～33 その他の代謝性疾患</td> </tr> <tr> <td>5～7 消化器疾患 (腸疾患)</td> <td>34～36 循環器疾患 (心不全、弁膜疾患)</td> </tr> <tr> <td>8～10 肝臓疾患</td> <td>37 循環器疾患 (不整脈、先天性心疾患)</td> </tr> <tr> <td>11 胆のう、胆道系疾患</td> <td>38～39 循環器疾患 (冠動脈疾患)</td> </tr> <tr> <td>12 膵臓疾患</td> <td>40～41 循環器疾患 (その他)</td> </tr> <tr> <td>13 呼吸器疾患 (感染性)</td> <td>42～43 血液疾患 (貧血)</td> </tr> <tr> <td>14～15 呼吸器疾患 (閉塞性)</td> <td>44 血液疾患 (白血病、出血性疾患)</td> </tr> <tr> <td>16 中間試験</td> <td>45 中間試験</td> </tr> <tr> <td>17～19 呼吸器疾患 (拘束性、その他)</td> <td>46～48 膠原病</td> </tr> <tr> <td>20～22 腎臓疾患</td> <td>49～53 神経疾患 (脳血管障害、脳腫瘍など)</td> </tr> <tr> <td>23～24 膀胱・尿道・前立腺疾患</td> <td>54～55 神経疾患 (変性疾患)</td> </tr> <tr> <td>25～28 内分泌疾患 (下垂体、甲状腺、副腎)</td> <td>56 神経疾患 (認知症)</td> </tr> <tr> <td>29 前期期末試験</td> <td>57～58 神経疾患 (筋疾患、末梢神経疾患)</td> </tr> <tr> <td>30 試験解説</td> <td>59 後期期末試験</td> </tr> <tr> <td></td> <td>60 試験解説</td> </tr> </table>			1 ガイダンス、消化器疾患 (口腔)	31 糖尿病	2～4 消化器疾患 (食道・胃)	32～33 その他の代謝性疾患	5～7 消化器疾患 (腸疾患)	34～36 循環器疾患 (心不全、弁膜疾患)	8～10 肝臓疾患	37 循環器疾患 (不整脈、先天性心疾患)	11 胆のう、胆道系疾患	38～39 循環器疾患 (冠動脈疾患)	12 膵臓疾患	40～41 循環器疾患 (その他)	13 呼吸器疾患 (感染性)	42～43 血液疾患 (貧血)	14～15 呼吸器疾患 (閉塞性)	44 血液疾患 (白血病、出血性疾患)	16 中間試験	45 中間試験	17～19 呼吸器疾患 (拘束性、その他)	46～48 膠原病	20～22 腎臓疾患	49～53 神経疾患 (脳血管障害、脳腫瘍など)	23～24 膀胱・尿道・前立腺疾患	54～55 神経疾患 (変性疾患)	25～28 内分泌疾患 (下垂体、甲状腺、副腎)	56 神経疾患 (認知症)	29 前期期末試験	57～58 神経疾患 (筋疾患、末梢神経疾患)	30 試験解説	59 後期期末試験		60 試験解説
1 ガイダンス、消化器疾患 (口腔)	31 糖尿病																																	
2～4 消化器疾患 (食道・胃)	32～33 その他の代謝性疾患																																	
5～7 消化器疾患 (腸疾患)	34～36 循環器疾患 (心不全、弁膜疾患)																																	
8～10 肝臓疾患	37 循環器疾患 (不整脈、先天性心疾患)																																	
11 胆のう、胆道系疾患	38～39 循環器疾患 (冠動脈疾患)																																	
12 膵臓疾患	40～41 循環器疾患 (その他)																																	
13 呼吸器疾患 (感染性)	42～43 血液疾患 (貧血)																																	
14～15 呼吸器疾患 (閉塞性)	44 血液疾患 (白血病、出血性疾患)																																	
16 中間試験	45 中間試験																																	
17～19 呼吸器疾患 (拘束性、その他)	46～48 膠原病																																	
20～22 腎臓疾患	49～53 神経疾患 (脳血管障害、脳腫瘍など)																																	
23～24 膀胱・尿道・前立腺疾患	54～55 神経疾患 (変性疾患)																																	
25～28 内分泌疾患 (下垂体、甲状腺、副腎)	56 神経疾患 (認知症)																																	
29 前期期末試験	57～58 神経疾患 (筋疾患、末梢神経疾患)																																	
30 試験解説	59 後期期末試験																																	
	60 試験解説																																	
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「臨床医学各論」 医道の日本社  「STEP内科」 海馬書房  「病気がみえる」 メディックメディア</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>筆記による試験 (中間及び期末) を評価の対象とし、60点以上取得したものを合格とし、単位取得とする。</p>																																	

学科名 鍼灸学科	科目名 社会はりきゅう学実習	担当者 濱本 健太郎
種類 (講義・演習・ <b>実習</b> )	回数 30回	時間数(単位数) 60時間(2単位)
配当学年・時期 3学年 <b>前期</b> <b>後期</b>		
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目である。鍼灸院での勤務経験をもち、現在も附属鍼灸院で臨床を行なっている教員が、臨床上よく遭遇する疾患について代表的な治療法を教授する。</p> <p>[目的・ねらい]</p> <p>現代社会における鍼灸治療の現状と課題を踏まえ、社会的ニーズの多様化に対応できる能力を修得する。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>前期はスポーツ傷害に対する鍼治療、特に低周波鍼通電療法の実習を行う。</p> <p>後期は高齢者に多い疾患に対する鍼灸治療の実習を行う。</p> <p>[修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>主要な筋に対して筋パルスを行うことができる。</p> <p>高齢者に多い疾患の特性に応じた鍼灸治療を行うことができる。</p>		
[授業の日程と各回のテーマ・内容]		
1 パルスの使い方 前脛骨筋への筋パルス	16 頭皮鍼 パーキンソン病	
2 僧帽筋への筋パルス	17 頭皮鍼 脳血管障害後遺症①	
3 棘上筋、棘下筋への筋パルス	18 脳血管障害後遺症②	
4 上腕二頭筋への筋パルス	19 脳血管障害後遺症③	
5 前腕屈筋群への筋パルス	20 刺針、施灸の練習	
6 前腕伸筋群への筋パルス	21 高血圧	
7 脊柱起立筋への筋パルス	22 試験練習	
8 大殿筋、中殿筋への筋パルス	23 試験練習	
9 大腿四頭筋への筋パルス	24 実技試験	
10 ハムストリングへの筋パルス	25 お互いへの鍼灸治療	
11 長腓骨筋、腓腹筋への筋パルス	26 糖尿病	
12 試験練習	27 排尿障害	
13 実技試験	28 お互いへの鍼灸治療	
14 肩甲拳筋、菱形筋への筋パルス	29 関節リウマチ	
15 大腿筋膜張筋、への筋パルス	30 お互いへの鍼灸治療	
[使用テキスト・参考文献] はりきゅう実技<基礎編> スポーツ傷害のハリ療法 鍼通電療法テクニック運動器系疾患へのアプローチ	[単位認定の方法及び基準] 実技試験で評価を行う。 実技試験60点以上の者を単位認定する。	

学科名 柔整学科	科目名 包帯固定学	担当者 岡 智宏																																
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">実習</span> )	回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2単位)																																
配当学年・時期 1 学年 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">前期</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">後期</span>																																		
<p>[目的・ねらい] 実技を通じて柔道整復術の基本である包帯固定法を身につける。</p> <p>[内容の概要] 軟性材料・硬性材料の一通りの扱いを修得する。また、教科書等には掲載されていないが、施術所等で使用している固定材料（弾性包帯等）の取り扱いも修得する。（各回「基本包帯法」内）</p> <p>[修了時の達成課題（到達目標）] 巻軸包帯を身体の各部位に適応させることができるようになるとともに、硬性材料を併用して確実な固定をできるようになる。</p>																																		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 ガイダンス・固定とは</td> <td style="width: 50%;">16 冠名包帯法まとめ</td> </tr> <tr> <td>2 軟性材料と硬性材料・良肢位</td> <td>17 硬性材料について</td> </tr> <tr> <td>3 巻軸包帯の扱い</td> <td>18 金属副子</td> </tr> <tr> <td>4 基本包帯法</td> <td>19 金属副子</td> </tr> <tr> <td>5 基本包帯法</td> <td>20 金属副子</td> </tr> <tr> <td>6 基本包帯法</td> <td>21 厚紙副子</td> </tr> <tr> <td>7 基本包帯法</td> <td>22 厚紙副子</td> </tr> <tr> <td>8 基本包帯法</td> <td>23 すだれ副子</td> </tr> <tr> <td>9 基本包帯法</td> <td>24 すだれ副子</td> </tr> <tr> <td>10 基本包帯法</td> <td>25 ギプス包帯</td> </tr> <tr> <td>11 基本包帯法振り返り</td> <td>26 ギプス包帯</td> </tr> <tr> <td>12 冠名包帯法</td> <td>27 冠名包帯・硬性材料振り返り</td> </tr> <tr> <td>13 冠名包帯法</td> <td>28 テーピング</td> </tr> <tr> <td>14 冠名包帯法</td> <td>29 テーピング</td> </tr> <tr> <td>前期末試験</td> <td>後期末試験</td> </tr> <tr> <td>15 前期まとめ・解説</td> <td>30 まとめ/解説</td> </tr> </table>			1 ガイダンス・固定とは	16 冠名包帯法まとめ	2 軟性材料と硬性材料・良肢位	17 硬性材料について	3 巻軸包帯の扱い	18 金属副子	4 基本包帯法	19 金属副子	5 基本包帯法	20 金属副子	6 基本包帯法	21 厚紙副子	7 基本包帯法	22 厚紙副子	8 基本包帯法	23 すだれ副子	9 基本包帯法	24 すだれ副子	10 基本包帯法	25 ギプス包帯	11 基本包帯法振り返り	26 ギプス包帯	12 冠名包帯法	27 冠名包帯・硬性材料振り返り	13 冠名包帯法	28 テーピング	14 冠名包帯法	29 テーピング	前期末試験	後期末試験	15 前期まとめ・解説	30 まとめ/解説
1 ガイダンス・固定とは	16 冠名包帯法まとめ																																	
2 軟性材料と硬性材料・良肢位	17 硬性材料について																																	
3 巻軸包帯の扱い	18 金属副子																																	
4 基本包帯法	19 金属副子																																	
5 基本包帯法	20 金属副子																																	
6 基本包帯法	21 厚紙副子																																	
7 基本包帯法	22 厚紙副子																																	
8 基本包帯法	23 すだれ副子																																	
9 基本包帯法	24 すだれ副子																																	
10 基本包帯法	25 ギプス包帯																																	
11 基本包帯法振り返り	26 ギプス包帯																																	
12 冠名包帯法	27 冠名包帯・硬性材料振り返り																																	
13 冠名包帯法	28 テーピング																																	
14 冠名包帯法	29 テーピング																																	
前期末試験	後期末試験																																	
15 前期まとめ・解説	30 まとめ/解説																																	
<p>[使用テキスト・参考文献] 公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 包帯固定学改定第2版 南江堂</p>	<p>[単位認定の方法及び基準] 前・後期それぞれ授業回数の4/5以上出席し、前期および後期に実技試験・筆記試験をそれぞれ行い、実技試験前後期平均60点以上かつ筆記試験前後期平均60点以上のものを合格とする。</p>																																	

学科名 柔整学科	科目名 柔道整復実技ⅡA	担当者 太田 浩之		
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ <span style="border: 1px solid black;">実習</span> )	回数 30回	時間数(単位数) 60 時間 (2単位)		
配当学年・時期 2学年 <span style="border: 1px solid black;">前期</span> <span style="border: 1px solid black;">後期</span>				
<p>[ 目的・ねらい ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下肢の軟部組織損傷についての評価法、治療法の理解</li> </ul> <p>[ 内容の概要 ] ( 柔道整復学・理論編P380～P405 )</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 下肢の軟部組織損傷 (股関節、大腿部、膝関節、下腿、足趾)</li> <li>2. 体幹の軟部組織損傷 (頸部、胸・背部、腰部)</li> </ol> <p>[ 修了時の達成課題 (到達目標) ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他外傷または疾患との鑑別と応急処置の習得</li> </ul>				
<p>[ 授業の日程と各回のテーマ・内容 ]</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>&lt;前期&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 股関節の軟部組織損傷</li> <li>2. 股関節の軟部組織損傷</li> <li>3. 股関節の軟部組織損傷</li> <li>4. 大腿部の軟部組織損傷</li> <li>5. 大腿部の軟部組織損傷</li> <li>6. 膝関節の軟部組織損傷</li> <li>7. 膝関節の軟部組織損傷</li> <li>8. 膝関節の軟部組織損傷</li> <li>9. 膝関節の軟部組織損傷</li> <li>10. 膝関節の軟部組織損傷</li> <li>11. 膝関節の軟部組織損傷</li> <li>12. 下腿部の軟部組織損傷</li> <li>13. 下腿部の軟部組織損傷</li> <li>14. 下腿部の軟部組織損傷</li> <li>15. 試験解説</li> </ol> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>&lt;後期&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 足関節の軟部組織損傷</li> <li>2. 足関節の軟部組織損傷</li> <li>3. 足関節の軟部組織損傷</li> <li>4. 足趾の軟部組織損傷</li> <li>5. 足趾の軟部組織損傷</li> <li>6. 頸部の軟部組織損傷</li> <li>7. 頸部の軟部組織損傷</li> <li>8. 頸部の軟部組織損傷</li> <li>9. 胸・背部の軟部組織損傷</li> <li>10. 胸・背部の軟部組織損傷</li> <li>11. 胸・背部の軟部組織損傷</li> <li>12. 腰部の軟部組織損傷</li> <li>13. 腰部の軟部組織損傷</li> <li>14. 腰部の軟部組織損傷</li> <li>15. 試験解説</li> </ol> </td> </tr> </table>			<p>&lt;前期&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 股関節の軟部組織損傷</li> <li>2. 股関節の軟部組織損傷</li> <li>3. 股関節の軟部組織損傷</li> <li>4. 大腿部の軟部組織損傷</li> <li>5. 大腿部の軟部組織損傷</li> <li>6. 膝関節の軟部組織損傷</li> <li>7. 膝関節の軟部組織損傷</li> <li>8. 膝関節の軟部組織損傷</li> <li>9. 膝関節の軟部組織損傷</li> <li>10. 膝関節の軟部組織損傷</li> <li>11. 膝関節の軟部組織損傷</li> <li>12. 下腿部の軟部組織損傷</li> <li>13. 下腿部の軟部組織損傷</li> <li>14. 下腿部の軟部組織損傷</li> <li>15. 試験解説</li> </ol>	<p>&lt;後期&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 足関節の軟部組織損傷</li> <li>2. 足関節の軟部組織損傷</li> <li>3. 足関節の軟部組織損傷</li> <li>4. 足趾の軟部組織損傷</li> <li>5. 足趾の軟部組織損傷</li> <li>6. 頸部の軟部組織損傷</li> <li>7. 頸部の軟部組織損傷</li> <li>8. 頸部の軟部組織損傷</li> <li>9. 胸・背部の軟部組織損傷</li> <li>10. 胸・背部の軟部組織損傷</li> <li>11. 胸・背部の軟部組織損傷</li> <li>12. 腰部の軟部組織損傷</li> <li>13. 腰部の軟部組織損傷</li> <li>14. 腰部の軟部組織損傷</li> <li>15. 試験解説</li> </ol>
<p>&lt;前期&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 股関節の軟部組織損傷</li> <li>2. 股関節の軟部組織損傷</li> <li>3. 股関節の軟部組織損傷</li> <li>4. 大腿部の軟部組織損傷</li> <li>5. 大腿部の軟部組織損傷</li> <li>6. 膝関節の軟部組織損傷</li> <li>7. 膝関節の軟部組織損傷</li> <li>8. 膝関節の軟部組織損傷</li> <li>9. 膝関節の軟部組織損傷</li> <li>10. 膝関節の軟部組織損傷</li> <li>11. 膝関節の軟部組織損傷</li> <li>12. 下腿部の軟部組織損傷</li> <li>13. 下腿部の軟部組織損傷</li> <li>14. 下腿部の軟部組織損傷</li> <li>15. 試験解説</li> </ol>	<p>&lt;後期&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 足関節の軟部組織損傷</li> <li>2. 足関節の軟部組織損傷</li> <li>3. 足関節の軟部組織損傷</li> <li>4. 足趾の軟部組織損傷</li> <li>5. 足趾の軟部組織損傷</li> <li>6. 頸部の軟部組織損傷</li> <li>7. 頸部の軟部組織損傷</li> <li>8. 頸部の軟部組織損傷</li> <li>9. 胸・背部の軟部組織損傷</li> <li>10. 胸・背部の軟部組織損傷</li> <li>11. 胸・背部の軟部組織損傷</li> <li>12. 腰部の軟部組織損傷</li> <li>13. 腰部の軟部組織損傷</li> <li>14. 腰部の軟部組織損傷</li> <li>15. 試験解説</li> </ol>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 柔道整復学 ( 理論編 )</li> <li>・ 柔道整復学 ( 実技編 )</li> </ul>		<p>[ 単位認定の方法及び基準 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実技試験、筆記試験、授業態度等を総合的に判断し評価する。 (実技試験・筆記試験：60点以上合格)</li> <li>・ 授業時数の4/5以上出席を必要とする。</li> </ul>		

学科名 柔整学科	科目名 臨床柔道整復学演習 I A	担当者 埜 義徳																																
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ <span style="border: 1px solid black;">実習</span> )	回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2単位)																																
配当学年・時期 2 学年 <span style="border: 1px solid black;">前期</span> <span style="border: 1px solid black;">後期</span>																																		
<p>[目的・ねらい]</p> <p>1年次に行った、柔道整復学の基礎部分をさらに発展させ各論に入っていく、総論と各論との関係性を勉強しつつ、より詳細に各部の疾患を勉強していく。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>実技との平行も図りつつ、認定実技審査ならびに国家試験に繋がるような内容とする。</p> <p>[修了時の達成課題 (到達目標) ]</p> <p>ペーパー試験ならびに認定実技審査に合格をさせることを重要項目とする。</p>																																		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 鎖骨骨折①</td> <td style="width: 50%;">16 肩関節部の軟部組織損傷①</td> </tr> <tr> <td>2 鎖骨骨折②</td> <td>17 肩関節部の軟部組織損傷②</td> </tr> <tr> <td>3 鎖骨骨折整復・固定実技①</td> <td>18 検査実技-腱板損傷</td> </tr> <tr> <td>4 鎖骨骨折整復・固定実技② [8字体・ジュール]</td> <td>19 検査実技-上腕二頭筋長頭腱損傷</td> </tr> <tr> <td>5 肩甲骨骨折</td> <td>20 肩関節部の軟部組織損傷③</td> </tr> <tr> <td>6 上腕骨近位部骨折①</td> <td>21 肩関節部の軟部組織損傷④</td> </tr> <tr> <td>7 上腕骨近位部骨折②</td> <td>22 肩関節部の軟部組織損傷⑤</td> </tr> <tr> <td>8 まとめ・中間試験</td> <td>23 まとめ・中間試験</td> </tr> <tr> <td>9 試験解説 上腕骨外科頸骨折整復・固定</td> <td>24 試験解説・鎖骨骨折・脱臼まとめ</td> </tr> <tr> <td>10 胸鎖・肩鎖関節脱臼</td> <td>25 上腕骨骨折まとめ①</td> </tr> <tr> <td>11 肩関節脱臼①</td> <td>26 上腕骨骨折まとめ②</td> </tr> <tr> <td>12 肩関節脱臼②</td> <td>27 肩関節脱臼まとめ①</td> </tr> <tr> <td>13 肩関節脱臼整復・固定</td> <td>28 肩関節脱臼まとめ②</td> </tr> <tr> <td>14 まとめ</td> <td>29 肩関節部の軟部組織損傷まとめ</td> </tr> <tr> <td>前期期末試験</td> <td>後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>15 試験解説</td> <td>30 試験解説</td> </tr> </table>			1 鎖骨骨折①	16 肩関節部の軟部組織損傷①	2 鎖骨骨折②	17 肩関節部の軟部組織損傷②	3 鎖骨骨折整復・固定実技①	18 検査実技-腱板損傷	4 鎖骨骨折整復・固定実技② [8字体・ジュール]	19 検査実技-上腕二頭筋長頭腱損傷	5 肩甲骨骨折	20 肩関節部の軟部組織損傷③	6 上腕骨近位部骨折①	21 肩関節部の軟部組織損傷④	7 上腕骨近位部骨折②	22 肩関節部の軟部組織損傷⑤	8 まとめ・中間試験	23 まとめ・中間試験	9 試験解説 上腕骨外科頸骨折整復・固定	24 試験解説・鎖骨骨折・脱臼まとめ	10 胸鎖・肩鎖関節脱臼	25 上腕骨骨折まとめ①	11 肩関節脱臼①	26 上腕骨骨折まとめ②	12 肩関節脱臼②	27 肩関節脱臼まとめ①	13 肩関節脱臼整復・固定	28 肩関節脱臼まとめ②	14 まとめ	29 肩関節部の軟部組織損傷まとめ	前期期末試験	後期期末試験	15 試験解説	30 試験解説
1 鎖骨骨折①	16 肩関節部の軟部組織損傷①																																	
2 鎖骨骨折②	17 肩関節部の軟部組織損傷②																																	
3 鎖骨骨折整復・固定実技①	18 検査実技-腱板損傷																																	
4 鎖骨骨折整復・固定実技② [8字体・ジュール]	19 検査実技-上腕二頭筋長頭腱損傷																																	
5 肩甲骨骨折	20 肩関節部の軟部組織損傷③																																	
6 上腕骨近位部骨折①	21 肩関節部の軟部組織損傷④																																	
7 上腕骨近位部骨折②	22 肩関節部の軟部組織損傷⑤																																	
8 まとめ・中間試験	23 まとめ・中間試験																																	
9 試験解説 上腕骨外科頸骨折整復・固定	24 試験解説・鎖骨骨折・脱臼まとめ																																	
10 胸鎖・肩鎖関節脱臼	25 上腕骨骨折まとめ①																																	
11 肩関節脱臼①	26 上腕骨骨折まとめ②																																	
12 肩関節脱臼②	27 肩関節脱臼まとめ①																																	
13 肩関節脱臼整復・固定	28 肩関節脱臼まとめ②																																	
14 まとめ	29 肩関節部の軟部組織損傷まとめ																																	
前期期末試験	後期期末試験																																	
15 試験解説	30 試験解説																																	
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>柔道整復学 (理論偏・実技偏) 改正第7版 南江堂</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>出席 4/5 以上を必要とする。</p> <p>筆記試験の評価は中間試験と期末試験を前期と後期に計 4 回行い、合計 240 点以上 (平均 60 点以上) で単位修得とする。</p> <p>実技試験 (前期・後期) の平均 60 点以上取得を合格とする。</p>																																	

学科名 柔整学科	科目名 総合演習 I A	担当者 岡 智宏			
種類 ( 講義 ・ <span style="border: 1px solid black;">演習</span> ・ 実習 )	回数 3 0 回	時間数(単位数) 6 0 時間	配当学年・時期 2 学年 <span style="border: 1px solid black;">前期</span> <span style="border: 1px solid black;">後期</span>		
<p>[ 目的・ねらい ]</p> <p>本授業で扱う疾患については、柔道整復師が行う保存療法では後遺障害などを残存させる可能性が高いものが多い。よって、基礎理論習得は基より、柔道整復師による施術の適否の判断能力を身につけていくことも目標としたい。また、基礎的な考え方を含め、臨床現場および国家試験に対応できる知識・ポイントの習得も目的とする。</p> <p>[ 内容の概要 ]</p> <p>下肢の骨折は合併症や重症度の関係や、荷重関節として正確な整復が必要であることから、柔道整復施術所で初期対応として遭遇する可能性は少ないが、後療・リハビリ現場では柔道整復師が施術にあたることもあるため、各傷病の特徴に加え、そこでの注意点などについても述べていくこととする。</p> <p>[ 修了時の達成課題 (到達目標) ]</p> <p>各傷病についての理解を深め、臨床に応用できる。</p>					
<p>[ 授業の日程と各回のテーマ・内容 ]</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1. 骨盤骨骨折  2. 骨盤骨骨折  3. 骨盤骨骨折  4. 大腿骨近位部の骨折  5. 大腿骨近位部の骨折  6. 大腿骨近位部の骨折  7. 大腿骨幹部の骨折  8. 大腿骨幹部の骨折  9. 大腿骨遠位部の骨折  10. 大腿骨遠位部の骨折  11. 大腿骨遠位部の骨折  12. 下腿骨近位部の骨折  13. 下腿骨近位部の骨折  14. 下腿骨近位部の骨折  前期末試験  15. 試験解説 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 16. 膝蓋骨骨折  17. 膝蓋骨骨折  18. 下腿骨幹部の骨折  19. 下腿骨幹部の骨折  20. 下腿骨幹部の骨折  21. 下腿骨遠位部の骨折  22. 下腿骨遠位部の骨折  23. 下腿骨遠位部の骨折  24. 足根骨部の骨折  25. 足根骨部の骨折  26. 足根骨の骨折  27. 中足骨の骨折  28. 中足骨の骨折  29. 趾骨の骨折  後期末試験  30. 試験の解説 </td> </tr> </table>				1. 骨盤骨骨折 2. 骨盤骨骨折 3. 骨盤骨骨折 4. 大腿骨近位部の骨折 5. 大腿骨近位部の骨折 6. 大腿骨近位部の骨折 7. 大腿骨幹部の骨折 8. 大腿骨幹部の骨折 9. 大腿骨遠位部の骨折 10. 大腿骨遠位部の骨折 11. 大腿骨遠位部の骨折 12. 下腿骨近位部の骨折 13. 下腿骨近位部の骨折 14. 下腿骨近位部の骨折 前期末試験 15. 試験解説	16. 膝蓋骨骨折 17. 膝蓋骨骨折 18. 下腿骨幹部の骨折 19. 下腿骨幹部の骨折 20. 下腿骨幹部の骨折 21. 下腿骨遠位部の骨折 22. 下腿骨遠位部の骨折 23. 下腿骨遠位部の骨折 24. 足根骨部の骨折 25. 足根骨部の骨折 26. 足根骨の骨折 27. 中足骨の骨折 28. 中足骨の骨折 29. 趾骨の骨折 後期末試験 30. 試験の解説
1. 骨盤骨骨折 2. 骨盤骨骨折 3. 骨盤骨骨折 4. 大腿骨近位部の骨折 5. 大腿骨近位部の骨折 6. 大腿骨近位部の骨折 7. 大腿骨幹部の骨折 8. 大腿骨幹部の骨折 9. 大腿骨遠位部の骨折 10. 大腿骨遠位部の骨折 11. 大腿骨遠位部の骨折 12. 下腿骨近位部の骨折 13. 下腿骨近位部の骨折 14. 下腿骨近位部の骨折 前期末試験 15. 試験解説	16. 膝蓋骨骨折 17. 膝蓋骨骨折 18. 下腿骨幹部の骨折 19. 下腿骨幹部の骨折 20. 下腿骨幹部の骨折 21. 下腿骨遠位部の骨折 22. 下腿骨遠位部の骨折 23. 下腿骨遠位部の骨折 24. 足根骨部の骨折 25. 足根骨部の骨折 26. 足根骨の骨折 27. 中足骨の骨折 28. 中足骨の骨折 29. 趾骨の骨折 後期末試験 30. 試験の解説				
<p>[ 使用テキスト・参考文献 ]</p> <p>柔道整復学・理論編 改訂第6版 南江堂  柔道整復学・実技編 改訂第2版 南江堂</p>		<p>[ 単位認定の方法及び基準 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席 4/5 以上を必要とする。</li> <li>・筆記試験の評価は、前期と後期の評価を総合して評価する。合計 120 点以上 (平均 60 点以上)</li> </ul>			

学科名 柔整学科	科目名 柔道整復実技 I	担当 加藤 彩花																																														
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">実習</span> )	回数 30 回	時間数(単位数) 60 時間 ( 2 単位 )	配当学年・時期 1 学年 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">前期</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">後期</span>																																													
<p>[ 目的・ねらい ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人体、特に運動器の基礎解剖を理解し、医療系科目を学ぶための基礎を作る</li> <li>・スポーツ選手を施術する際のテーピング固定などができるようになる。</li> </ul> <p>[ 内容の概要 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人体解剖について解剖学 I B (解剖学 p21~122) の基礎的な知識を深め、実際に触れて確認する。関節や筋なども確実に理解し、テーピング等をおこなう。</li> </ul> <p>[ 修了時の達成課題 (到達目標) ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な人体解剖 (運動系) が理解できている。主な骨・筋を触れることができる。</li> </ul>																																																
<p>[ 授業の日程と各回のテーマ・内容 ]</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">1 解剖学総論 (用語)</td> <td style="width: 33%;">骨格系総論①</td> <td style="width: 33%;">16 筋系総論</td> </tr> <tr> <td>2 骨格系総論</td> <td></td> <td>17 頸部の筋</td> </tr> <tr> <td>3 スポーツテーピング①</td> <td></td> <td>18 胸部の筋</td> </tr> <tr> <td>4 スポーツテーピング②</td> <td></td> <td>19 腹部の筋</td> </tr> <tr> <td>5 スポーツテーピング③</td> <td></td> <td>20 背部の筋</td> </tr> <tr> <td>6 上肢の骨格まとめ</td> <td></td> <td>21 上肢の筋① (上肢帯の筋)</td> </tr> <tr> <td>7 前半 まとめ</td> <td></td> <td>22 前半 まとめ</td> </tr> <tr> <td>8 下肢骨①</td> <td></td> <td>23 上肢の筋② (上腕の筋・前腕の筋)</td> </tr> <tr> <td>9 下肢骨②</td> <td></td> <td>24 上肢の筋③ (前腕の筋・手の筋)</td> </tr> <tr> <td>10 スポーツストレッチ①</td> <td></td> <td>25 下肢の筋① (内・外寛骨筋)</td> </tr> <tr> <td>11 スポーツストレッチ②</td> <td></td> <td>26 下肢の筋② (大腿の筋)</td> </tr> <tr> <td>12 スポーツテーピング④</td> <td></td> <td>27 下肢の筋③ (下腿の筋)</td> </tr> <tr> <td>13 スポーツテーピング⑤</td> <td></td> <td>28 下肢の筋④ (下腿の筋・足の筋)</td> </tr> <tr> <td>14 後半 まとめ</td> <td></td> <td>29 後半 まとめ</td> </tr> <tr> <td>15 ふりかえり</td> <td></td> <td>30 ふりかえり</td> </tr> </table>				1 解剖学総論 (用語)	骨格系総論①	16 筋系総論	2 骨格系総論		17 頸部の筋	3 スポーツテーピング①		18 胸部の筋	4 スポーツテーピング②		19 腹部の筋	5 スポーツテーピング③		20 背部の筋	6 上肢の骨格まとめ		21 上肢の筋① (上肢帯の筋)	7 前半 まとめ		22 前半 まとめ	8 下肢骨①		23 上肢の筋② (上腕の筋・前腕の筋)	9 下肢骨②		24 上肢の筋③ (前腕の筋・手の筋)	10 スポーツストレッチ①		25 下肢の筋① (内・外寛骨筋)	11 スポーツストレッチ②		26 下肢の筋② (大腿の筋)	12 スポーツテーピング④		27 下肢の筋③ (下腿の筋)	13 スポーツテーピング⑤		28 下肢の筋④ (下腿の筋・足の筋)	14 後半 まとめ		29 後半 まとめ	15 ふりかえり		30 ふりかえり
1 解剖学総論 (用語)	骨格系総論①	16 筋系総論																																														
2 骨格系総論		17 頸部の筋																																														
3 スポーツテーピング①		18 胸部の筋																																														
4 スポーツテーピング②		19 腹部の筋																																														
5 スポーツテーピング③		20 背部の筋																																														
6 上肢の骨格まとめ		21 上肢の筋① (上肢帯の筋)																																														
7 前半 まとめ		22 前半 まとめ																																														
8 下肢骨①		23 上肢の筋② (上腕の筋・前腕の筋)																																														
9 下肢骨②		24 上肢の筋③ (前腕の筋・手の筋)																																														
10 スポーツストレッチ①		25 下肢の筋① (内・外寛骨筋)																																														
11 スポーツストレッチ②		26 下肢の筋② (大腿の筋)																																														
12 スポーツテーピング④		27 下肢の筋③ (下腿の筋)																																														
13 スポーツテーピング⑤		28 下肢の筋④ (下腿の筋・足の筋)																																														
14 後半 まとめ		29 後半 まとめ																																														
15 ふりかえり		30 ふりかえり																																														
<p>[ 使用テキスト・参考文献 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柔道整復学 (理論編)</li> <li>・解剖学</li> </ul>		<p>[ 単位認定の方法及び基準 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席 4/5 以上を必要とする。</li> <li>・单元ごとに確認テストを行い、授業態度等も含め総合的に判断し評価する。</li> </ul>																																														

学科名	科目名	担当者																												
歯科衛生学科	歯科予防処置実技実習 I	末永 由美																												
種類 (講義・演習・実習)	回数 36回	時間数(単位数) 72時間(2単位)																												
		配当学年・時期 1 学年 前期 後期																												
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>歯科医院での10年以上の臨床経験があり、多くの臨床経験から得た知識技術の中で、基礎的な知識・技術の習得を目的とし教育を行っている。</p> <p>[目的・ねらい]</p> <p>歯科衛生士が行うことのできる歯科予防処置法の内容を理解し、器具の正しい把持法、基本的な技術・術式を身に付け、これからの実践で使える技術の基盤作りを目的とする。</p> <p>さらに、患者とのコミュニケーションを円滑にする大切さを理解することを目標とする。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>歯科予防処置の知識・技能および態度を基に、患者に対してそれを応用・駆使できる総合能力の充実をはかる。</p> <p>[修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>臨床の場で実際に患者さんに対して“患者さんのために”自分は何をするべきか何が出来るかを考えることができ、安全で適切な対応ができるようになる。</p> <p>また、チェックリストを各々で作成させることで到達度を把握し、スキルの向上を図る。</p>																														
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0"> <tr> <td>17 前期期末試験</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1 実技オリエンテーション【AB合同】</td> <td>18 試験解説【AB合同】</td> </tr> <tr> <td>2 ピンセット・ミラーの取り扱い方【AB合同】</td> <td>19 グレーシーキュレットスケーラー(構造、特徴)【AB合同】</td> </tr> <tr> <td>3 ファントムの取り扱い・ポジション【AB合同】</td> <td>20 スケーラーの把持法と固定の取り方【AB合同】</td> </tr> <tr> <td>4 基本の姿勢【AB合同】</td> <td>21 0度挿入【AB合同】</td> </tr> <tr> <td>5 シックルスケーラー(構造、特徴)【AB合同】</td> <td>22 グレーシーキュレットスケーラー操作方法【AB合同】</td> </tr> <tr> <td>6 スケーラーの把持法【AB合同】</td> <td>23~26 グレーシーキュレットスケーラー操作方法</td> </tr> <tr> <td>7~8 スケーラーの固定【AB合同】</td> <td>27~28 齲蝕活動性試験</td> </tr> <tr> <td>9~12 シックルスケーラー操作方法</td> <td>29 フッ化物の応用、後期末試験について</td> </tr> <tr> <td>13 シックルスケーラーシャープニング</td> <td>30 プロービング</td> </tr> <tr> <td>14 演習・前期末試験について</td> <td>31 シャープニング磨</td> </tr> <tr> <td>15 演習</td> <td>32~34 演習</td> </tr> <tr> <td>16 演習(シックルスケーラー操作・シャープニング)</td> <td>35 後期末試験</td> </tr> <tr> <td></td> <td>36 試験解説</td> </tr> </table>			17 前期期末試験		1 実技オリエンテーション【AB合同】	18 試験解説【AB合同】	2 ピンセット・ミラーの取り扱い方【AB合同】	19 グレーシーキュレットスケーラー(構造、特徴)【AB合同】	3 ファントムの取り扱い・ポジション【AB合同】	20 スケーラーの把持法と固定の取り方【AB合同】	4 基本の姿勢【AB合同】	21 0度挿入【AB合同】	5 シックルスケーラー(構造、特徴)【AB合同】	22 グレーシーキュレットスケーラー操作方法【AB合同】	6 スケーラーの把持法【AB合同】	23~26 グレーシーキュレットスケーラー操作方法	7~8 スケーラーの固定【AB合同】	27~28 齲蝕活動性試験	9~12 シックルスケーラー操作方法	29 フッ化物の応用、後期末試験について	13 シックルスケーラーシャープニング	30 プロービング	14 演習・前期末試験について	31 シャープニング磨	15 演習	32~34 演習	16 演習(シックルスケーラー操作・シャープニング)	35 後期末試験		36 試験解説
17 前期期末試験																														
1 実技オリエンテーション【AB合同】	18 試験解説【AB合同】																													
2 ピンセット・ミラーの取り扱い方【AB合同】	19 グレーシーキュレットスケーラー(構造、特徴)【AB合同】																													
3 ファントムの取り扱い・ポジション【AB合同】	20 スケーラーの把持法と固定の取り方【AB合同】																													
4 基本の姿勢【AB合同】	21 0度挿入【AB合同】																													
5 シックルスケーラー(構造、特徴)【AB合同】	22 グレーシーキュレットスケーラー操作方法【AB合同】																													
6 スケーラーの把持法【AB合同】	23~26 グレーシーキュレットスケーラー操作方法																													
7~8 スケーラーの固定【AB合同】	27~28 齲蝕活動性試験																													
9~12 シックルスケーラー操作方法	29 フッ化物の応用、後期末試験について																													
13 シックルスケーラーシャープニング	30 プロービング																													
14 演習・前期末試験について	31 シャープニング磨																													
15 演習	32~34 演習																													
16 演習(シックルスケーラー操作・シャープニング)	35 後期末試験																													
	36 試験解説																													
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論</p> <p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>期末試験、授業態度、身だしなみ、出欠席、提出物を総合的に評価する。60点に満たない者は、再試験を行う。再試験は、再試験のみを評価する。</p> <p>実習時間外に練習を行い基本的な技術を身に付けるように努力すること。</p> <p>技術が著しく劣っている者には、2年生で行う相互実習に参加できない場合がある。</p>																														



2 0 2 3 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 歯科予防処置実技実習Ⅱ		担当者 末永 由美																	
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">実習</span> )		回数 1 8 回	時間数(単位数) 3 6 時間 ( 1 単 位 )	配当学年・時期 2 学年 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">前期</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">後期</span>																	
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>歯科医院での10年以上の臨床経験があり、臨床経験をもとに実際の臨床症例にあわせた処置方法や対応について教育を行っている。</p> <p>[目的・ねらい]</p> <p>歯周組織の病的変化を見逃さないために、健康像を十分に理解し、常に人が健康でいられる状態を保つ事が出来るようにする。またさらに、歯周治療の流れを理解し、応用力を身に付け、患者とのコミュニケーションを円滑にすることを目標とする。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>歯科予防処置の知識・技能および態度を基に、患者に対してそれを応用・駆使できる総合能力の充実をはかる。</p> <p>[修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>臨床の場で実際に患者さんに対して“患者さんのために”自分は何をするべきか何が出来るかを考えることができ、安全で適切な対応ができるようになる。</p> <p>また、チェックリストを各々で作成させることで到達度を把握し、スキルの向上を図る。</p>																					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 口腔内診査・プロービング（ファントム）</td> <td style="width: 50%;">1 2 シャープニングセミナー</td> </tr> <tr> <td>2～4 口腔内診査・プロービング（相互実習）</td> <td>1 3 シャープニング</td> </tr> <tr> <td>5 チェックテスト説明、演習</td> <td>1 4～1 5 歯肉縁下歯石の除去と歯面研磨（相互）</td> </tr> <tr> <td>6 エアフロー・歯面研磨（ファントム）</td> <td>1 6 演習</td> </tr> <tr> <td>7 エアスケーラー（ファントム）</td> <td>1 7 登院前試験</td> </tr> <tr> <td>8～9 超音波スケーラー、手用スケーラー（相互）</td> <td>1 8 フィードバック</td> </tr> <tr> <td>1 0 チェックテスト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1 1 フィードバック、 後期末試験説明</td> <td></td> </tr> </table>						1 口腔内診査・プロービング（ファントム）	1 2 シャープニングセミナー	2～4 口腔内診査・プロービング（相互実習）	1 3 シャープニング	5 チェックテスト説明、演習	1 4～1 5 歯肉縁下歯石の除去と歯面研磨（相互）	6 エアフロー・歯面研磨（ファントム）	1 6 演習	7 エアスケーラー（ファントム）	1 7 登院前試験	8～9 超音波スケーラー、手用スケーラー（相互）	1 8 フィードバック	1 0 チェックテスト		1 1 フィードバック、 後期末試験説明	
1 口腔内診査・プロービング（ファントム）	1 2 シャープニングセミナー																				
2～4 口腔内診査・プロービング（相互実習）	1 3 シャープニング																				
5 チェックテスト説明、演習	1 4～1 5 歯肉縁下歯石の除去と歯面研磨（相互）																				
6 エアフロー・歯面研磨（ファントム）	1 6 演習																				
7 エアスケーラー（ファントム）	1 7 登院前試験																				
8～9 超音波スケーラー、手用スケーラー（相互）	1 8 フィードバック																				
1 0 チェックテスト																					
1 1 フィードバック、 後期末試験説明																					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>歯科衛生士教本                  歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>期末試験、チェックテスト、授業態度、身だしなみ、出欠席、提出物を総合的に評価する。</p> <p>チェックテスト未受験の者は期末試験を受験する事が出来ないとする。</p> <p>チェックテスト、期末試験の本試験が60点に満たない者は、再試験を行う。</p> <p>再試験は、再試験のみを評価する。</p> <p>技術向上の為に実習授業時間外にも練習を行うこと。技術が著しく劣っている者には、相互実習に参加させない。</p>																		

2 0 2 3 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 歯科衛生学科	科目名 歯科保健指導実技実習 I		担当者 植松 汐美		
種類 ( 講義 ・ 演習 ・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">実習</span> )	回数 1 8 回	時間数(単位数) 3 6 時間 ( 1 単位)	配当学年・時期 1 学年 前期 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">後期</span>		
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>歯科医院で10年以上の臨床経験を持ち、臨床で得た知識や技術を生かし、問題解決型の教育を行っている。</p> <p>[目的・ねらい]                  口腔清掃指導を行うために必要な知識、技術および態度を習得する。</p> <p>[内容の概要]                  歯・口腔の清掃に関する清掃用具の特徴と操作方法、歯磨剤、洗口剤、歯垢染色剤の特徴と使用方法                  口腔内の観察、口腔清掃状態の評価</p> <p>[修了時の達成課題（到達目標）]                  口腔清掃用具などの種類について説明ができる。歯磨剤とフッ化物配合歯磨剤の特徴について説明ができる。口腔清掃法について説明、実施ができる。口腔内の観察ができる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">                             1 口腔清掃用具 I                              2 口腔清掃用具 II                              3 化学的清掃法 I                              4 化学的清掃法 II                              5 口腔清掃補助用具 I                              6 口腔清掃補助用具 II                              7 口腔清掃方法（発表）                              8 口腔清掃方法（フィードバック）                              9 歯垢染色法                         </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">                             10 口腔清掃状態に関する指標                              11 口腔清掃実習 I                              12 口腔清掃実習 II                              13 口腔清掃実習（相互）                              14 口腔清掃補助用具実習                              15 チェックテスト（A B 合同）                              16 まとめ                              17 期末実技試験                              18 解説                         </td> </tr> </table>				1 口腔清掃用具 I 2 口腔清掃用具 II 3 化学的清掃法 I 4 化学的清掃法 II 5 口腔清掃補助用具 I 6 口腔清掃補助用具 II 7 口腔清掃方法（発表） 8 口腔清掃方法（フィードバック） 9 歯垢染色法	10 口腔清掃状態に関する指標 11 口腔清掃実習 I 12 口腔清掃実習 II 13 口腔清掃実習（相互） 14 口腔清掃補助用具実習 15 チェックテスト（A B 合同） 16 まとめ 17 期末実技試験 18 解説
1 口腔清掃用具 I 2 口腔清掃用具 II 3 化学的清掃法 I 4 化学的清掃法 II 5 口腔清掃補助用具 I 6 口腔清掃補助用具 II 7 口腔清掃方法（発表） 8 口腔清掃方法（フィードバック） 9 歯垢染色法	10 口腔清掃状態に関する指標 11 口腔清掃実習 I 12 口腔清掃実習 II 13 口腔清掃実習（相互） 14 口腔清掃補助用具実習 15 チェックテスト（A B 合同） 16 まとめ 17 期末実技試験 18 解説				
<p>[使用テキスト・参考文献]                  最新歯科衛生士教本                  歯科予防処置論・歯科保健指導論</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]                  授業態度、出席状況、実習・提出物・課題への取り組みの姿勢、各テストおよび期末実技試験の結果等により総合評価を行う。</p>			

## 2023年度授業概要

必修

学科名 歯科衛生学科	科目名 歯科保健指導実技実習Ⅱ	担当者 植松 汐美																		
種類 (講義・演習・ <b>実習</b> )	回数 18回	時間数(単位数) 36時間(1単位)																		
配当学年・時期 2学年 <b>前期</b> <b>後期</b>																				
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>歯科医院で10年以上の臨床経験を持ち、臨床で得た知識や技術を生かし、問題解決型の教育を行っている。</p> <p>[目的・ねらい]</p> <p>1年次に学んだことをもとに歯科衛生士活動の意義を理解し、様々なライフステージまたは症例に応じた保健指導を行えることを目的とする。また、個別・集団指導の基本的な技法を習得する。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>口腔清掃補助用具について、義歯関連清掃用具について、口腔清掃指導(リスク、ライフステージ別)</p> <p>[修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>ライフステージや症例に応じた保健指導ができる。</p> <p>歯ブラシや各種清掃用具の選択と使用法の指導ができる。</p>																				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容]</p> <table border="0"> <tr> <td>1 オリエンテーション、1年次の復習</td> <td>10 登院前試験について(課題の説明)</td> </tr> <tr> <td>2 口腔清掃法実技Ⅰ(ブラッシング指導実技)</td> <td>11 摂食・嚥下Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>3 口腔清掃法実技Ⅱ(ブラッシング指導実技)</td> <td>12 摂食・嚥下Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>4 口腔清掃法実技Ⅲ(ブラッシング指導実技)</td> <td>13 ライフステージ別の口腔清掃指導Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>5 口腔状況に応じた指導法Ⅰ</td> <td>14 ライフステージ別の口腔清掃指導Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>6 口腔状況に応じた指導法Ⅱ</td> <td>15 ライフステージ別の口腔清掃指導Ⅲ</td> </tr> <tr> <td>7 義歯関連</td> <td>16 まとめ</td> </tr> <tr> <td>8 セミナー</td> <td>17 期末試験(登院前試験)</td> </tr> <tr> <td>9 チェックテスト(口頭試問)</td> <td>18 解説</td> </tr> </table>			1 オリエンテーション、1年次の復習	10 登院前試験について(課題の説明)	2 口腔清掃法実技Ⅰ(ブラッシング指導実技)	11 摂食・嚥下Ⅰ	3 口腔清掃法実技Ⅱ(ブラッシング指導実技)	12 摂食・嚥下Ⅱ	4 口腔清掃法実技Ⅲ(ブラッシング指導実技)	13 ライフステージ別の口腔清掃指導Ⅰ	5 口腔状況に応じた指導法Ⅰ	14 ライフステージ別の口腔清掃指導Ⅱ	6 口腔状況に応じた指導法Ⅱ	15 ライフステージ別の口腔清掃指導Ⅲ	7 義歯関連	16 まとめ	8 セミナー	17 期末試験(登院前試験)	9 チェックテスト(口頭試問)	18 解説
1 オリエンテーション、1年次の復習	10 登院前試験について(課題の説明)																			
2 口腔清掃法実技Ⅰ(ブラッシング指導実技)	11 摂食・嚥下Ⅰ																			
3 口腔清掃法実技Ⅱ(ブラッシング指導実技)	12 摂食・嚥下Ⅱ																			
4 口腔清掃法実技Ⅲ(ブラッシング指導実技)	13 ライフステージ別の口腔清掃指導Ⅰ																			
5 口腔状況に応じた指導法Ⅰ	14 ライフステージ別の口腔清掃指導Ⅱ																			
6 口腔状況に応じた指導法Ⅱ	15 ライフステージ別の口腔清掃指導Ⅲ																			
7 義歯関連	16 まとめ																			
8 セミナー	17 期末試験(登院前試験)																			
9 チェックテスト(口頭試問)	18 解説																			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 最新歯科衛生士教本 「保健生態学」</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>出席状況、授業態度、期末試験により総合評価を行う。実技試験で60点以下の場合は、再試験を行う。期末試験は複数教員で評価を行うこととする。</p>																			

学科名 歯科衛生学科	科目名 歯科診療補助実技実習 I	担当者 森 安曇
種類 (講義・演習・ <b>実習</b> )	回数 18回	時間数(単位数) 36時間(1単位)
配当学年・時期 1学年 <b>前期</b> <b>後期</b>		
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>歯科医院での臨床経験や訪問診療、在宅口腔ケアの経験を持ち、豊富な臨床経験から臨床症例を用い、技術や知識のみでなく問題解決能力を育成する教育を行っている。</p> <p>[目的・ねらい]</p> <p>歯科診療で使用する材料の操作手順を実際に取り扱うことにより、その性質等を理解し、実際の診療に即した取り扱い方法を身につける。また、診療の流れを把握し、業務の優先順位を考えた段取り力を身につける。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>歯科診療で使用される歯科材料の取り扱い方を学び、業務の流れを把握する。</p> <p>[修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>印象材やセメントの練和ができる。</p> <p>歯科材料の取り扱いが正しくできる。</p> <p>周囲に配慮した行動や指示通りの行動をとることができる。</p> <p>歯科診療の流れを把握し、優先順位に応じた行動ができる。</p>		
[授業の日程と各回のテーマ・内容]		
1 実技オリエンテーション	12 歯科衛生士業務 I	
2 リン酸亜鉛セメント	13 歯科衛生士業務 II	
3 グラスアイオノマーセメント	14 演習	
4 仮封材 I	15 演習	
5 仮封材 II	16 まとめ	
6 仮封材 III	17 試験	
7 アルジネート印象材 I	18 解説	
8 アルジネート印象材 II		
9 連合印象 I		
10 連合印象 II		
11 歯科用石膏		
[使用テキスト・参考文献] 最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版 医歯薬出版 イラストと写真でわかる歯科材料の基礎 永末書店	[単位認定の方法及び基準] 実技試験 80% 提出物 10% 出席・授業態度 10% で総合評価を行う。授業中の私語、居眠り、忘れ物、不真面目な態度等及び身だしなみが整っていない場合は減点の対象とする。	

学科名	科目名	担当者	
歯科衛生学科	歯科診療補助実技実習Ⅱ	森 安曇	
種類 (講義・演習・実習)	回数	時間数(単位数)	配当学年・時期
	54回	108時間(3単位)	2学年 前期 後期
<p>本科目は実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>歯科医院での20年以上の臨床経験があり、臨床に必要な歯科診療補助に必要な技術・知識の習得とともに、チーム医療のスタッフとして専門的な立場から行動できるよう教育を行っている。</p> <p>[目的・ねらい]</p> <p>臨床実習に向けて歯科衛生士として必要な知識、技術を高める。今まで学んだことを総合的に考え、自らの行動をマネジメントできる段取り力をみにつけることを目標とする。また、コミュニケーション能力の充実を図る。</p> <p>[内容の概要]</p> <p>臨床実習に向けてより具体的な歯科診療補助について知識、技術を高めるために、実技実習を行う。ロールプレイを通し、歯科医療現場で自主的に行動することが出来るよう実技実習を行う。歯科医療現場に即した実技実習を多く取り入れる。</p> <p>[修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>症例に応じた手順、器具や器材の準備ができる。</p> <p>印象材やセメントが適切な状態で練和できる。</p> <p>治療内容を理解し、器具の名前や使用方法が説明できる。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容]			
1	オリエンテーション	23～26	歯科治療時に使用される器具・器材
2	1年次の復習	27～36	器具のセッティング
3	バキュームテクニック	37～49	演習
4	歯間分離・隔壁法	50～54	バキュームセミナー(予定)
5～6	成形歯冠修復	51～54	期末試験(登院前試験)
7～11	テンポラリークラウン		
12～13	ラバーダム防湿		
14	印象採得(ファントム)		
15～20	スタディーモデル		
21～22	スタディーモデル(トリミング)		
[使用 テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 医歯薬出版 歯科材料 医歯薬出版		期末試験、チェックテスト、授業態度で総合的に評価する。期末試験は各項目すべてで60%以上の点数が無い場合は単位を与えない。欠席、早退、私語等授業態度が不良な場合や身だしなみが整えられていない場合は、減点する。	